

・文政十一年

八月朔日。日暮。先考忽然トシテ、舌本強リ、言語調セス、中風ノ症ニ類セリ。大ニ驚キ、速ニ諫山安民ヲ招イテ、其藥ヲ用ヒタリ。館林清記モ亦来ツテ藥ヲ調ス。(略) 塩谷明府ヨリ彦山増進坊ニ命シテ、我家ニ来リ、五日ノ祈禱ヲ行ハシム。秋月ノ医師戸原元節限町ニ来ルニ因リテ、之ヲ請ウテ、診視セシム。又、江藤熙春、官府ニ来ルニヨツテ、之ニモ診ヲ乞ヘリ。戸原ハ其藥ヲモ用ヒタリ。其後、病漸ク快クシテ、本月十四日、遂ニ自ラ龍馬ノ森及ヒ大原ノ神祠ニ謁シ玉フニ至ル。其後ハ、殆ンド平日ニ復シタリ。

・天保十六年(一八四五)

五月四日。大原及ヒ龍馬森ノ神祠ニ至リ、西遊安全ニシテ帰リシコトヲ拝謝シ、又東行ノ安全ヲ祈レリ。去年府内ヲ去ルトキ。彼方ヨリノ請アリ。明年ハ學校ヲ建ツルナリ。何卒来リテ學政ヲ建立シ給ハルヘシト。今春學校既ニ成レリ。而ルニ予大村ノ行アリ。帰家ノ上、参ルヘキ由、答ヘタリ。因ツテ又旅中ノ祈ヲナセリ。

廿六日。官府ニ至リ、大村行ノコトヲ請ヒ、親族ニ辞別ス。廿七日、大原及龍馬森ノ神祠ニ謁シ、旅中安全ヲ祈レリ。

右のうち文政十一年(一八二八)の記事は淡窓の父三郎右衛門の重篤な病氣にあつての記事である。この時は三郎右衛門の病は平癒したが、天保五年(一八三四)に亡くなつた。

### 若八幡神社(龍馬森稻生祠)(図1・27)

大原神社とのかかわりで淡窓・廣瀬家にとつて格別の意味を持つ神社がある。大原神社から西四百メートルほどのところにある若八幡神社である。若八幡神社は大原神社の外宮として放生会等の祭礼にもかかわり深いお宮である。市民には宮太夫(みやんて)などとして知られているが、これは「宮太夫」「神主宮太夫殿」と呼ばれた大原宮の宮司家が当地に住んだことによる。

この宮は『懐旧樓筆記』や「日記」には「龍馬森」「稻生社」などの名で見える。ここにいう龍馬森は龍馬林とも呼ばれ、もととは若宮八幡の北にその跡をとどめていた。廣瀬家第二世源兵衛が此の地に稻荷神祠を建立、代々信仰の深かつたこともあつて、淡窓や廣瀬家とは特に関係の深いところである。

この龍馬森との関連で注目すべきものに門弟村上姑南の「学思館」がある。姑南は文政元年(一八一八)下毛郡中磨村の生れで、天保五年(一八三四)咸宜園に「村上虎来」の名で入門、月旦評の九級にまで昇り都講に任ぜられた俊秀である。姑南は明治十三年、咸宜園に迎えられ、その再興に尽力したが二年にして退き家塾学思館で教授した。高倉芳男氏はこの学思館が龍馬林の地にあつたとしている。

『懐旧樓筆記』には、この龍馬森(稻生祠)の記事が頻出する。

・文政八年(一八二五)

一月十三日。椿蔵、勘次郎ヲ携ヘテ、大原宮ニ謁シ、始テ新道ヲ見ル。是ハ大原ヨリ龍馬森迄ノ道ヲ、塩谷明府ヨリ命シテ修セシメ玉フナリ。故道ニ比スレハ、規模格別ニ大ニナレリ。今アル所是ナリ。

・天保四年(一八三三)

七月十四日。龍馬森稻生祠ニ謁シテ、先考ノ病平愈ヲ祈ル。此ヨリ始メ。明年十月ニ至ルマデ、日参セリ。稻生祠ハ、我家曾祖ノ建立シ玉ヒシ所ナリ。故ニ家ニ事アレハ、之ニ祈ルコト。旧例ナリ。などとある如くである。これが「日記」になるとさらに頻繁に参詣や散歩の記事が見える。

龍馬森稻生祠は廣瀬家の氏神の意味をもっていた。それだけに淡窓はじ



若八幡神社(龍馬森稻生祠)